

に染みて感じています。いつまでもこの気持ちを持ち続け、いつか、国と国との衝突、宗教、人種の違いなどから起こる争いの中で、苦しい生活を強いられている人々が、幸せを感じられるお手伝いをしたいと思う。

こういう気持ちを持てるようになったのも明德にいたから。卒業して、社会に出て、どれだけ世の中のために、他人のために尽くせるか、それができたとき、自分では気づかない間に成長し、変わることができるのではないだろうか。

ここでは書ききれないほどの思い出を作れたことは、一生忘れないだろう。

みんな今までありがとう。そしてこれからもよろしく。明德義塾、6年間本当にありがとうございました。

Cさん

ソフトテニス部のCさん。寮長を務めてくれました。

私の明德での生活は、無我夢中で過ぎて行きました。その中で得た財産はこれからも私の人生の土台になると感じます。

普通の高校生活では体験できない生活、何もかもが初めてで、戸惑う中での苦しさは想像以上でした。でも苦しい環境の中で、家族や先生方や周りの支えにどれだけ感謝しなければならないのかということに気づき、それを原動力として寮生活や部活動に励むことができました。それと同時に、自分を律することが徐々にできるようになりました。

部活動では、技術以上のものを先生方や先輩方から教わりました。辛いことや苦しいこともあり、挫折したこともありました。でもそれ以上に、懸命に指導してくださる先生方に申し訳なくて、「自分の限界を変える」事を目標に、三年間頑張ることができました。部活動では人間性の向上と精神力を学ぶことができました。

寮生活では、寮長という役割を通して、今までのものの見方や自分の中にある価値観が大きく変わりました。厳しく、限られている生活だからこそ、私は多くを得ることが出来たのだと思います。

ここでの生活は、絶対に忘れられない程、一日が大切に、大変で、貴重なものです。三年間で私がかかわったすべての人に感謝し、その気持を大切に、新たな道で精一杯頑張ります。三年間ありがとうございました。



写真は全て
「姉妹校の生徒との
交流風景」

このほかにも、

普通の高校生の様に、学校帰りにコンビニやマックに行くなど、あたり前のことができなかったけど、普通の高校生にはできない経験ができました。



留学生、日本人、そんな事は全く関係ないくらい楽しい寮の雰囲気を作ることができたと思います。

など、明德ならではの生活を綴ったものが多くありました。

そして卒業生たちが異口同音に挙げているのが「家族への感謝の気持ち」です。子供が寮に入るとき、本人よりも親のほうで不安で心配でたまらない気持ちになるものです。そんな気持ちをしっかりと受け止め、自分が精一杯頑張ることで、感謝の気持ちを伝えてきた子供たち。離れて暮らしたからこそ、お互いの存在に感謝し絆を強めることができる機会であったのだと思います。

どんなに時代が変わっても、生徒の国籍が多様になろうとも、こういう心を育てる教育こそが明德教育の柱なのだと、生徒たちの作文が改めて教えてくれました。

明德義塾中学校・高等学校

〒785-0195 高知県須崎市浦ノ内下中山 160

TEL : 088-856-1211 (代) FAX : 088-856-3214

HP : www.meitoku-gijuku.ed.jp E-mail : info@meitoku-gijuku.ed.jp



紹介された生徒の作文を一読するだけで、明德義塾で寮生活を送る生徒の苦労・喜びが分かります。そして、その変化の様子を知ることにより、明德義塾の寮生活を通しての教育が見えてきます。

「師弟同行」の教育理念を、全校生と教職員の9割が共同生活をして、さらに3割にも及び留学生もまじえて、これほど徹底して実践している学校は、日本では唯一です。今後注目しましょう。